

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 第	号
------	-----	---

氏 名 剣持 明日香

論 文 題 目

Out-of-home activity accessibility checklist for
parents of children with gross motor dysfunction

(運動機能障害がある子どもの養育者のための
外出に関するチェックリスト開発)

論文審査担当者

主 査	名古屋大学教授	飯高 哲也
	名古屋大学教授	浅野 みどり
	名古屋大学教授	辛島 千恵子

論文審査の結果の要旨

背景：運動機能障害がある子どもは、定型発達の子どものと比較して余暇活動や学校での活動等、外出を必要とする活動に制限があることが先行研究により指摘されている。しかし、その養育者を対象とした外出に関する研究は見受けられない。

目的：運動機能障害がある子ども(以下、子ども)の養育者の外出の現状を把握することができるチェックリストの項目を決定する。

方法：運動機能障害がある18歳未満の子どもの養育者(以下、養育者)を対象とした。半構造化インタビューで得られたデータの質的分析により、チェックリストの仮項目を生成した。Delphi法による繰り返しアンケート調査から適切な項目を精選した。

結果及び考察：対象者14名分の半構造化インタビューのデータから124の仮項目を生成し、Delphi法による繰り返しアンケート調査の結果、39項目が採用された。採用された項目の内容から、養育者が外出時に抱える問題は主に、子どもや介助者である養育者が利用する物理的環境の不備や周囲の無理解な振る舞いから引き起こされている。これらの問題に対応するため、外出前に念入りな情報収集を行なっていることが分かった。また、外出時に必要としている支援として、子ども(障害児)や養育者(介助者)が利用しやすい環境の整備を重視していることが分かった。

課題：今後、チェックリストの完成(標準化など)を進める。同時に専門家会議(発達支援事業所や発達支援センターの施設長など、行政の専門家や養育者と子どもの支援にあたる専門家で構成)で実用化に向けて検討する。

本研究の新知見と意義は要約すると以下のとおりである。

1. 運動障害がある子どもの養育者のための外出に関するチェックリストの開発に向けた39の質問項目が精選された。
2. 子どもと養育者の外出の現状と支援のために重要な以下の知見を得た
 - ①養育者は、子どもと共に利用する物理的環境の不備や周囲の無理解な振る舞いにより外出を困難に感じていることが分かった。
 - ②養育者は、外出にあたり①の問題を解決するために外出先の情報収集などの工夫をおこなないながらも同時に、事前準備に負担を感じていることが分かった。
 - ③養育者は外出先での不適切な物理的環境に対して支援を求めていることが分かった。

以上、本研究は運動障害がある子どもとその養育者が社会参加するための手段である「外出」に関しての困難さ、実際の工夫、養育者の求めている支援を知り、支援の方策に寄与する知見を提供した。

以上の理由により、本研究は博士(リハビリテーション療法学)の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※第	号	氏名	剣持 明日香	
試験担当者	主査	名古屋大学教授	飯高 哲也	名古屋大学教授 浅野 みどり	名古屋大学教授 辛島 千恵子
<p>(試験の結果の要旨)</p> <p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.本研究の新規性・独自性 2.研究結果の今後の発展性と実践への応用について 3.Delphi法の妥当性、原則、利点、弱点について 4.Delphi法の参加者パネルの妥当性 5.子どもの特性によるDelphi法の精選項目の違い 6.アンケート項目の精選プロセスで除外された項目について <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、リハビリテーション療法学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>					